

環境活動報告書

ENVIRONMENTAL REPORT 2012



2012 年度



I	2012年の環境目標の達成度	1
II	環境目標達成状況	3
III-1	省エネルギーへの取り組み（CO ₂ 排出量の推移）	4
III-2	省資源化への取り組み（廃棄物排出量の推移）	5
IV	環境関連法の順守状況	6
V	各サイトの法令順守状況について	7
VI	各サイトの環境活動への取り組み状況	13
VII	グリーン購入の状況	21
VIII	法順守及び顧客に寄与する環境活動への取り組み	22
IX	地域の環境保全活動に関する取り組み	24
X	省エネに寄与する環境活動への取り組み	25



環境方針 Sustainability

顧客とともに『地域の環境保全を担う』理念のもと

私たちの社会の持続的発展のために

- 事業活動の環境負荷を継続的に把握・評価します
- 環境法規制を遵守し、遵守に寄与する情報・技術の提言と成果の波及に努めます
- 省資源・省エネルギー・廃棄物の3Rやグリーン調達を進め、環境負荷低減に努めます
- 地域社会や国際社会に積極的に協力し、環境汚染の防止と環境負荷低減への貢献に努めます

私たちの活動の維持と進化のために

- 持続的発展活動を確実にを行う仕組みを作ります
- 成果としてどうなるべきかを目標設定します
- 仕組みと目標を皆で共有します
- 仕組みが機能しているかを確認します
- 目標の進捗と地域への貢献度に注視します
- 仕組みの改善を常に行います
- 常に「さらに良く」を追求し高次元化します

①環境法順守率100%の達成		達成度	評価	
全社	環境関連法令に対応できる社内体制の確立	100%	→ ○	
四日市分析センター	法順守率100%の達成	100%	→ ○	
松阪分析センター	環境法順守率100%の達成	100%	→ ○	
②環境負荷と環境貢献を取り入れた環境報告書の作成		実績値	達成度	評価
全社	環境レポートの充実及び活動情報の積極的公開(環境レポートのWeb公開)	公開	100%	↑ ◎
③環境関連設備の管理システムを維持改善する		達成度	評価	
四日市分析センター	環境関連設備の管理システムの維持改善	100%	→ ○	
松阪分析センター	環境関連設備の管理システムの維持改善	100%	→ ○	
④自社利用資源の削減(業務効率を高めながらエネルギー使用量を削減する)		実績値	達成度	評価
全社	2010年の年間実績値に対して2%削減(CO2換算10.8t)する	-37.5t	100%以上	↑ ◎
全社(工程チーム)	構造的な時間外業務の抽出と勤務シフト検討による残業低減		50%	→ ○
本社	2010年の年間実績値に対して2%削減(CO2換算1.03t)する	-3.6t	100%以上	↑ ◎
本社	グリーン調達率の購入比率100%を実現		92%	↓ △
四日市分析センター	2010年比で粗利1万円に対する二酸化炭素の排出量を2%削減する(6.56kg/1万円から6.31g/1万円)	6.09kg	100%以上	↑ ◎
松阪分析センター	2010年比で粗利1万円に対する二酸化炭素の排出量を2%削減する(6.84kg/1万円から6.70kg/1万円)	6.16kg	100%以上	↑ ◎
⑤自社利用資源の削減(廃棄物削減3R活動の恒常的实施)		実績値	達成度	評価
全社	2010年の年間実績値に対して2%削減(絶対量269kg)する	-1025kg	100%以上	↑ ◎
全社(情報チーム)	伝票処理の効率化→発注・仕入れ対応方法の見直し(伝票処理の自動化・FAXレス化による紙資源の低減)		50%	→ ○
全社(情報チーム)	購入品伝票の電子フロー化(伝票処理の自動化による紙資源の低減)		70%	→ ○
本社	廃棄物削減の3R活動の恒常的活動を実施し、2010年の廃棄物排出量の2%を(13.2kg)削減する	-19.2kg	100%以上	↑ ◎
四日市分析センター	廃棄物削減の3R活動を恒常的に実施し2010年の粗利1万円に対する廃棄物排出量を2%削減(207g/1万円から202g/1万円へ)する	187g	100%以上	↑ ◎
松阪分析センター	廃棄物削減の3R活動を恒常的に実施し2010年の粗利1万円に対する廃棄物排出量を2%削減(91.5g/1万円から89.7g/1万円へ)する	93.6g	-87%	↓ ×
⑥顧客(地域・地球)の法順守と貢献活動及び環境負荷提言		実績値	達成度	評価
営業部	社会貢献活動への参加 2件/年	2件	100%	→ ○
営業部	環境管理情報の収集と顧客への提供 セミナー1回/年 かわせみ継続	2回	100%以上	↑ ◎
営業部	順法・環境管理の再構築提言	5回	100%	→ ○

⑦環境負荷低減設備の販売に基づく二酸化炭素削減への貢献		達成度	評価
営業部	環境負荷低減に繋がる設備販売によるCO2削減への貢献	提案までにとどまる	↓ △
⑧環境汚染・環境負荷低減に繋がる分析商品の販売		達成度	評価
営業部	環境配慮設計商品の開拓、販売と振分析分野の受注	ヒアリングまで	↓ △
⑨全社員を巻き込んだEMSの進化(改善)		達成度	評価
全社(品質チーム)	各分析室に応じた環境条件の明確化と管理システムの構築	60%	→ ○
全社(品質チーム)	試験項目又はカテゴリーに応じた教育プログラムと力量評価方法の検討	30%	→ ○
全社(情報チーム)	有益な環境側面の明確化とその側面の効果の向上	100%	→ ○
本社	エコキャップ運動の推進	100%	→ ○
本社	環境・社会貢献活動への参加	100%以上	↑ ◎
営業部	社内で使用できるエコ商品の情報収集及び発掘	100%	→ ○
四日市分析センター	EMS活動のモチベーションの向上	100%	→ ○
松阪分析センター	EMS活動への全員参加	100%	→ ○
松阪分析センター	eco検定 1名合格	1名合格(西中)	→ ○

自社利用資源の有効活用については、エネルギー・廃棄物削減とともに粗利益をもとに原単位換算したもので評価した。具体的には資源生産性という指標を用い、粗利益1万円を捻出する活動に対しての二酸化炭素の発生量及び廃棄物の発生量を把握したものをを用いて評価した

◆エネルギー使用量に対する資源生産性

単位:kg

サイト	2010年	2011年	2012年	前年比
四日市分析センター	6.56	6.55	6.09	-7.0%
松阪分析センター	6.84	5.85	6.16	5.3%

◆廃棄物削減に対する資源生産性

単位:g

サイト	2010年	2011年	2012年	前年比
四日市分析センター	207	167	188	12.6%
松阪分析センター	91.5	82.8	93.6	13.0%

◆エネルギー使用に伴う二酸化炭素の絶対量削減率

単位:t

サイト	2010年	2011年	2012年	前年比
四日市分析センター	342.1	329.5	320.4	-2.8%
松阪分析センター	149.4	136.8	137.2	0.3%

◆廃棄物削減の絶対量削減率

単位:kg

サイト	2010年	2011年	2012年	前年比
四日市分析センター	10803	8376	9886	18.0%
松阪分析センター	1999	1937	2083	7.5%

■ エネルギー資源に対する活動について

全社目標値である二酸化炭素の排出量10.8tの削減目標に対して、37.5tと目標値を大きく上回ることが出来、削減率としては-6.8%となりました。

これは電気の使用量で95900kWhに相当し、1kWhの電力単価を20円で計算すると192万のエネルギーコスト削減となり、二酸化炭素削減の貢献の目安としては1haの杉林18年分の消費量になります。

また3ヶ年の2年目の成果としては、2011年の29.6tと併せてトータルで67.1tの削減量と順調に推移しています。

■ 廃棄物削減に対する活動について

全社目標値である269kgの廃棄物削減目標に対して、1025kgと前年に引き続き大幅削減を達成することが出来ました。これは四日市分析センターでの廃プラ再生化が大きく寄与しており、この部分で2200kgを上回る削減を実施出来ていますが反面一般廃棄物の排出量は1300kg以上増加しているため、今後は一般廃棄物の削減に尽力する必要があります。

■ 顧客(地域・地球)の法順守と環境貢献活動及び負荷低減

大きな法改正として「有害物質使用特定施設に係る定期点検義務等」について水質汚濁防止法の改正があり、メーカーの協力も得ながら7月度に関連セミナーを実施し59団体99名のご参加を戴きました。

また5月には東京ビックサイトで開催された「2012NEW環境展」にブース出展し、アスベストモニタリング車の展示を実施しています。

ISO9000及び14000に関する内部監査員養成セミナーについても各5回開催することが出来ました。本年度は14001に関する内容を大幅に一新し、ISO規格を通じて問題解決の方法を学べ人材育成としても活用できる内容とし参加者の方々から好評を戴くことが出来ています。

環境貢献活動としては、恒例行事となっている各サイト周辺地域の清掃活動を実施するとともに、一部の有志の方で四日市市内での清掃活動やウミガメ保存会が実施する海岸清掃活動などにも参加しました。

定番となっているニュースレター紙「かわせみ通信」も2012年12月で40号となり、2013年には節目となる50号に達するためよりいっそう内容の充実を図りたいと思います。

■ 環境負荷低減設備の販売に基づく二酸化炭素削減への貢献

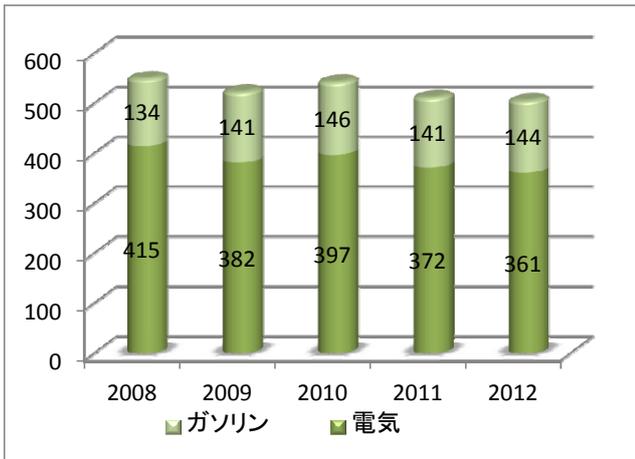
本年度はボイラ等の販売実績が目標に届かず、設備販売によるCO₂の貢献は出来なかったが、ボイラを更新時の判断材料の一つである省エネ診断を提案することにより、適正な機種の設定ができるような情報を提供していきたい。

■ 社員全員を巻き込んだEMSの進化

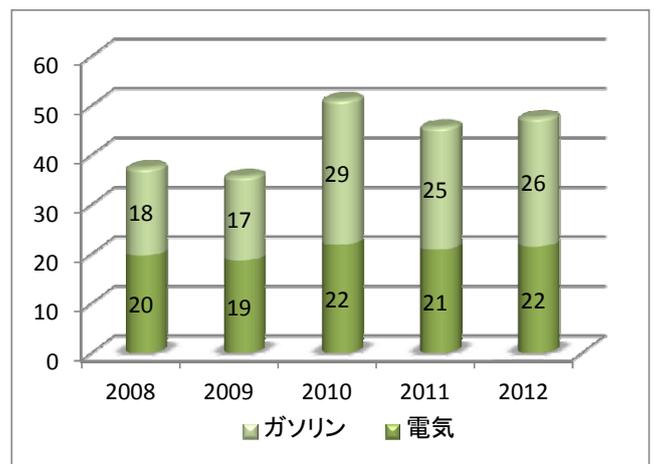
2011年に四日市分析センターで始まった、エコキャップ活動は今年から全社に広がり各サイトでも積極的に取り組みが進み全社で約4300個のキャップを集めることができ、小さな活動ですが5人の子供達にポリオワクチンの貢献が出来たこととなります。

エネルギー資源の目標値が大きく目標値をクリア出来たのは、見える化での意識の向上や、社員全員を巻き込んだ啓蒙活動の効果や、一つひとつは目立ちませんが小さな環境や工程改善の積み重ねが成果になってきました。

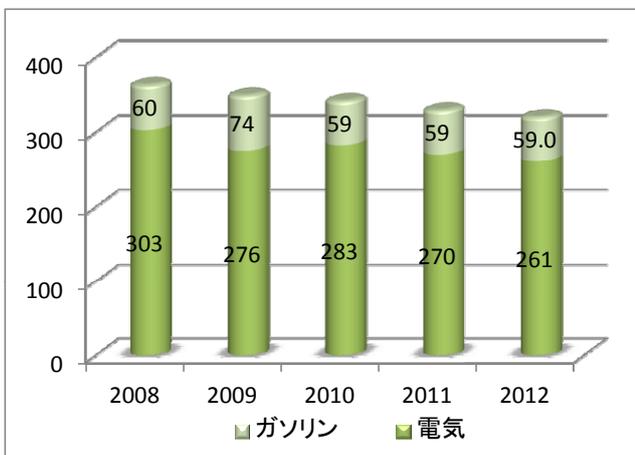
全社



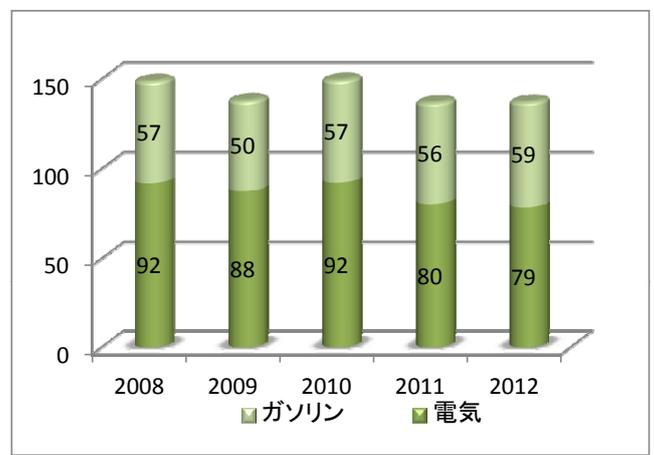
本社



四日市分析センター

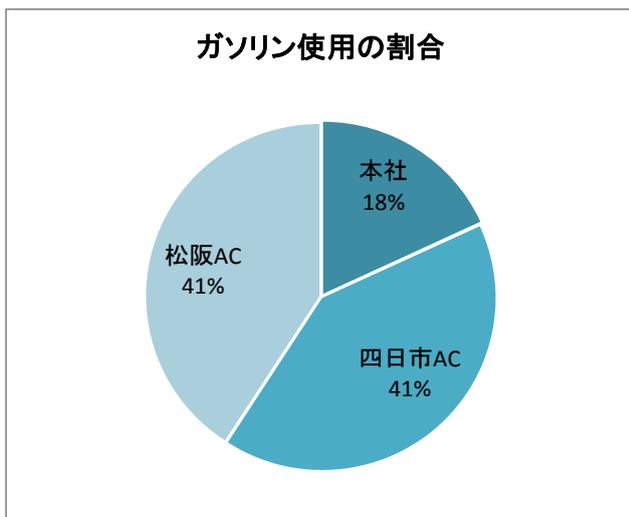


松阪分析センター

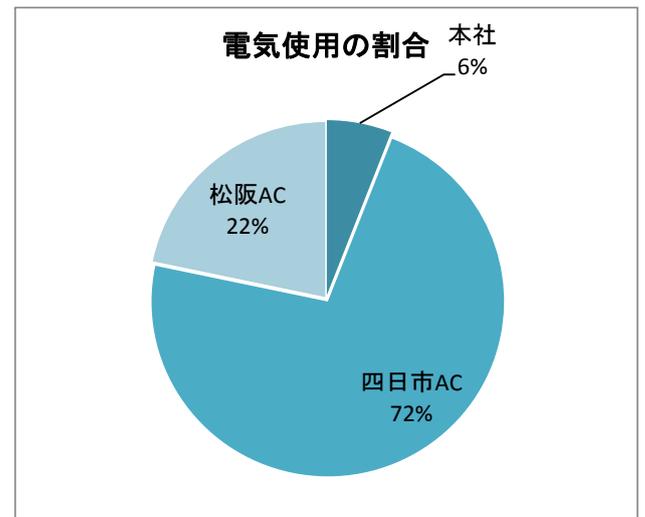


サイト間の使用割合

ガソリン使用の割合



電気使用の割合

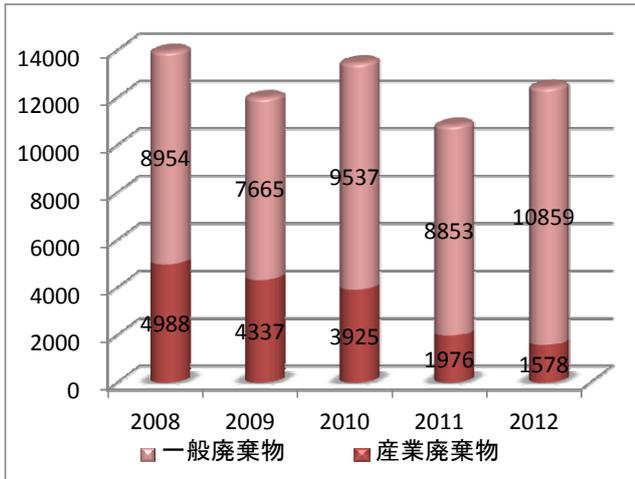


ガソリンの消費量はほぼ横ばい傾向の状況が続いているが、電気消費量は順調に削減が進んでおり節電意識の根付きと歩留まり対策等の改善効果が現れているものと思われる。

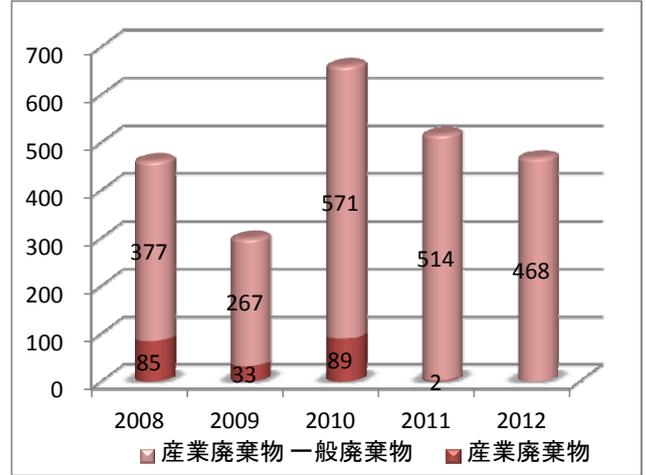
ガソリン使用の割合は四日市ACと松阪ACが同じ使用量となり、所有台数で19台、12台と大きく違うにもかかわらずこのような結果になったことは改めて松阪の移動エリアの広さを物語る結果となったが、効果的な配車が出来ているかを同時に検証する必要があると感じます。

廃棄物排出量の推移 (kg/年)

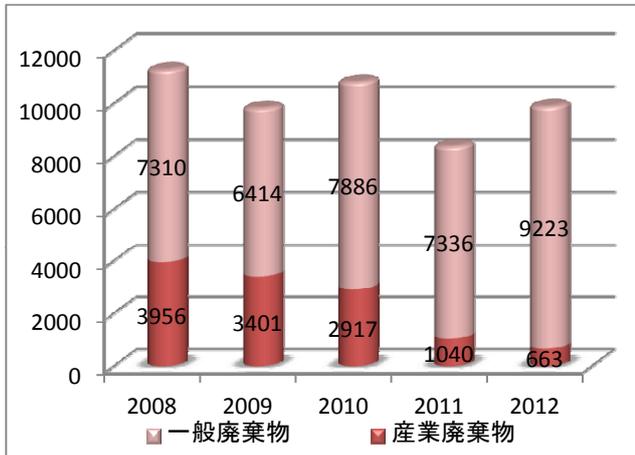
全社



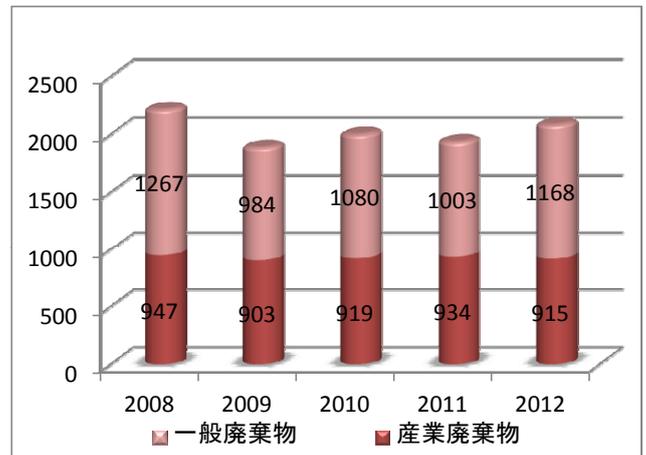
本社



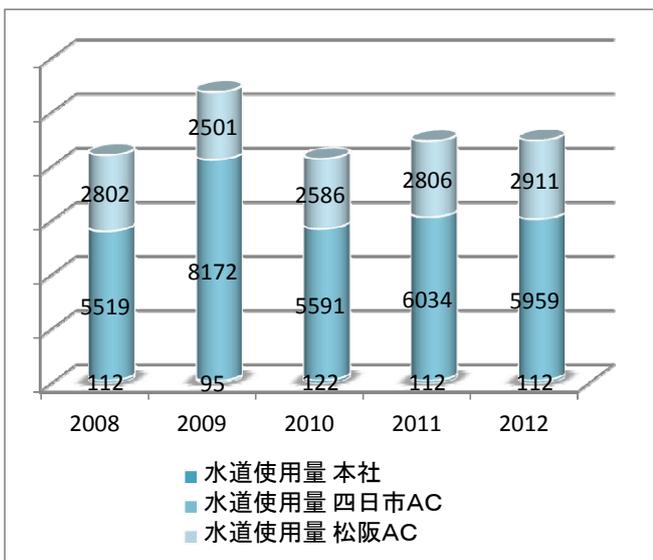
四日市分析センター



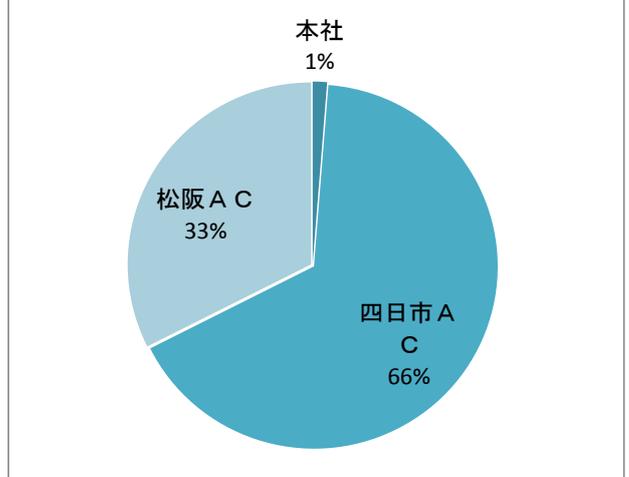
松阪分析センター



水道使用量の推移 (m3/年)



水道使用量比率



廃棄物は年度ごとの差が大きく傾向が掴みにくい状況であるが、2012年は四日市ACでの一般廃棄物の排出量が増大したことがマイナス面であった。水道使用量は2010年より微増している傾向があるので、冷却水対策などを継続して進めて行く必要があると思われる。

環境法令の順守は、事業活動の基盤となる認識のもと、日常業務における化学物質や廃棄物の適正な管理に取り組んでいます。さらに、環境汚染の防止や騒音・振動など地域環境への配慮にも取り組んでいます。

当社の業務に係る環境関連法

- 悪臭防止法
 - ・四日市及び松阪分析センターの敷地境界線における環境モニタリング測定において、規制基準を満たしています。
- 水質汚濁防止法
 - ・四日市及び松阪分析センターの構造等に関する基準における定期点検の結果、異常はありませんでした。
- 下水道法
 - ・四日市及び松阪分析センターの放流水の水質検査において、規制基準を満たしています。
- 廃棄物処理法
 - ・事業活動における産業廃棄物はマニフェスト管理の徹底や、飛散防止措置など保管基準を満たしています。
- 毒物及び劇物取締法
 - ・保管基準に従い毒物劇物取扱責任者により使用記録等厳重に管理され、適切に保管場所の明示がされています。
- 放射性同位体元素等による放射線障害の防止に関する法律(四日市分析センターのみ)
 - ・放射線障害予防規程を遵守し、対象の放射線であるECD検出器(Ni63)の機器表面で測定し、放射線源の最大線量当量率が0.6 μ Sv/h以下であることを確認しています。
- PRTR法
 - ・化管法対象事業者(業種コード:8630)として、第一種指定化学物質の排出量・移動量の届出書を提出しました。

法規制には直接該当しないが、環境側面に適用される法規制

- 騒音規制法
 - ・四日市及び松阪分析センターの敷地境界線における環境モニタリング測定において、自主基準を満たしています。
- 振動規制法
 - ・四日市及び松阪分析センターの敷地境界線における環境モニタリング測定において、自主基準を満たしています。

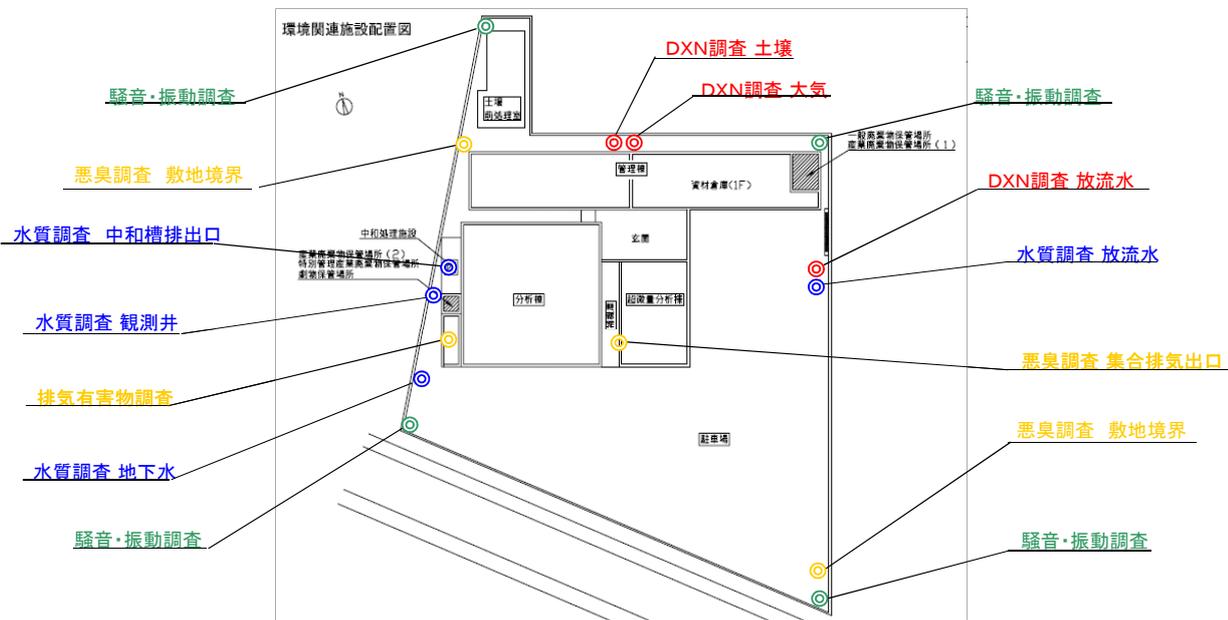
その他の主な環境法規制

環境法規制	主な規制内容	順守状況等
省エネルギー法	年間使用エネルギー量の合計が原油換算で1,500kL/年以上であれば、特定事業者となり申告の義務が発生する。	本社、四日市、松阪の全社の年間使用エネルギー量の合計が239kL/年のため申告義務には該当せず。
グリーン購入法	環境負荷が出来るだけ小さいものを買うこと(環境ラベルの記載されているもの)	グリーン購入率90%
家電リサイクル法	エアコン、テレビ(液晶・プラズマ含む)、冷蔵庫、洗濯機、衣類乾燥機の廃棄時の引取業者への引渡し	廃棄時に遂行

四日市分析センターには、以下の環境関連法について法律の順守が求められています。

1. 悪臭防止法
2. 水質汚濁防止法
3. 下水道法
4. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
5. 毒物及び劇物取締法
6. 放射性同位体元素等による放射線障害の防止に関する法律
7. PRTR法

■ 四日市分析センター 周辺環境影響調査位置図



1. 悪臭防止法

事業活動による周辺地域への大気汚染防止対策として、悪臭防止法に定められている22物質について年1回敷地境界にて調査を実施し、法規制の基準値を順守していることを確認しています。



測定項目	測定値		自主基準値
	風上	風下	
アンモニア	< 0.1	< 0.1	0.5
メチルメルカプタン	< 0.0002	< 0.0002	0.002
硫化水素	0.011	0.005	0.02
硫化メチル	< 0.001	< 0.001	0.01
二硫化メチル	< 0.0009	< 0.0009	0.009
トリメチルアミン	< 0.0005	< 0.0005	0.0025
アセトアルデヒド*	0.015	0.012	0.025
プロピオンアルデヒド*	< 0.0005	< 0.0005	0.025
ルマルブチルアルデヒド*	< 0.0009	< 0.0009	0.0045
イソブチルアルデヒド*	< 0.002	< 0.002	0.01
ルマルペンチルアルデヒド*	< 0.0009	< 0.0009	0.0045
イソペンチルアルデヒド*	< 0.0003	< 0.0003	0.003
イソブタノール	< 0.09	< 0.09	0.45
酢酸エチル	< 0.3	< 0.3	1.5
メチルイソブチルケトン	< 0.1	< 0.1	0.5
トルエン	< 1	< 1	5
スチレン	< 0.04	< 0.04	0.2
キシレン	< 0.1	< 0.1	0.5
プロピオン酸	< 0.003	< 0.003	0.015
ルマル酪酸	< 0.0001	< 0.0001	0.0005
ルマル吉草酸	< 0.00009	< 0.00009	0.00045
イ吉草酸	< 0.0001	< 0.0001	0.0005

単位: ppm

2. 水質汚濁防止法

水質汚濁防止法に基づき、洗浄施設として流し台、ドラフトチャンバー等を届け出ています。四日市分析センターの構造等に関する基準における定期点検の結果、異常はありませんでした。



3. 下水道法

放流水について健康項目及び生活環境項目等に関して年1回調査を実施し、全ての調査項目において自主基準値をクリアしている事が確認できました。また、放流水調査ではpH、BOD等特定の項目を毎月測定し、全ての調査項目において自主基準値をクリアしている事が確認できました。

4. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

廃掃法に基づき、事業活動により排出された廃棄物について、適切に分類、保管を実施しています。また、処分については廃棄物処理専用業者に委託し、マニフェストによる適正な管理、処理を行い、法律を順守しています。



廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）に基づく廃棄物の処理状況		調査年度	調査月	調査項目	調査結果	備考
1	廃棄物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
2	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
3	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
4	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
5	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
6	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
7	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
8	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
9	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
10	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
11	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
12	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
13	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
14	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
15	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
16	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
17	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
18	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
19	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
20	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
21	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
22	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
23	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
24	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
25	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
26	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
27	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
28	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
29	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	
30	燃焼物の分別収集	2012	3	燃焼物	分別収集	

5. 毒物及び劇物取締法

事業活動において使用する毒物及び劇物について、保管場所を決め、適切に表示しています。また、毒物及び劇物の使用に関しては管理台帳によって管理し、法律を順守しています。



6. 放射性同位体元素等による放射線障害の防止に関する法律

放射線障害予防規程を遵守し、対象の放射線であるECD検出器 (Ni63) の機器表面で測定し、放射線源の最大線量当量率が $0.6 \mu\text{Sv/h}$ 以下であることを確認しています。

測定月	放射線量等量率
3月	0.044
9月	0.044

単位: $\mu\text{sv/h}$



7. PRTR法

化管法対象事業者 (業種コード: 8630) として、トルエンの排出量・移動量の届出書を提出しました。

8. 周辺環境影響調査

四日市分析センターでは他にも事業活動による周辺環境への影響調査として、騒音、振動、水質、ダイオキシン類及び排気有害物の調査も実施しています。

8-1. 水質調査

中和槽排出口、観測井及び地下水について健康項目及び生活環境項目等に関して年1回調査を実施し、全ての調査項目において自主基準値をクリアしている事が確認できました。



8-2. 騒音・振動調査

敷地境界における騒音・振動調査を年1回実施しました。騒音・振動ともに自主基準値をクリアしている事が確認できました。

測定項目	測定値	自主基準値
騒音レベル(L ₅)	① 59 dB(A)	70 dB(A)
	② 55 dB(A)	
	③ 61 dB(A)	
	④ 54 dB(A)	
振動レベル(L ₁₀)	① 39 dB	70 dB
	② 37 dB	
	③ 38 dB	
	④ 38 dB	



8-3. ダイオキシン類調査

環境大気、土壌及び放流水におけるダイオキシン類調査を年1回実施しました。各媒体ともに、自主基準値をクリアしている事が確認できました。

媒体	測定値	自主基準値
環境大気	0.036 pg-TEQ/m ³	0.2 pg-TEQ/m ³
土壌	4.6 pg-TEQ/g-dry	25 pg-TEQ/g-dry
放流水	1.7 pg-TEQ/L	5 pg-TEQ/L



8-4. 排気有害物調査

四日市分析センター排突において、排気有害物調査を年1回実施しました。炭化水素及びトルエンを測定した結果、自主基準値をクリアしている事が確認できました。



松阪分析センターにおいては、各環境関連法について次のような活動をして法令を順守しております。

1. 悪臭防止法関連(敷地境界における悪臭物質測定)

松阪分析センターでは、事業活動による周辺地域への大気汚染防止の確認の為、悪臭防止法に定められている22物質について、敷地境界で年1回測定し、法規制の基準値をクリアしていることを確認しております。

悪臭物質測定結果

測定項目	測定値	自主基準	測定項目	測定値	自主基準
アンモニア	<0.1	0.5	イソハレルアルデヒド*	<0.0003	0.0015
メチルメルカプタン	<0.0002	0.001	イソブタノール	<0.09	0.45
硫化水素	<0.002	0.01	酢酸エチル	<0.3	1.5
硫化メチル	<0.001	0.005	メチルイソブチルケトン	<0.1	0.5
二硫化メチル	<0.0009	0.0045	トルエン	<1	5
トリメチルアミン	<0.0005	0.0025	スチレン	<0.04	0.2
アセトアルデヒド*	<0.005	0.025	キシレン	<0.1	0.5
プロピオンアルデヒド*	<0.005	0.025	プロピオン酸	<0.003	0.015
ノルマルブチルアルデヒド*	<0.0009	0.0045	ノルマル酪酸	<0.0001	0.0005
イソブチルアルデヒド*	<0.002	0.01	ノルマル吉草酸	<0.00009	0.00045
ノルマルヘレルアルデヒド*	<0.0009	0.0045	イソ吉草酸	<0.0001	0.0005

単位: ppm

2. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃液の漏洩防止対策)

松阪分析センターでは、廃掃法に基づき、事業活動により排出された廃棄物について、適切に分類、保管を行っております。

また、分析の工程で発生した廃液の保管については、廃液タンクへの受け皿の使用、また、ピグマットの常備など周辺環境への漏洩防止を徹底しております。



3. 毒物及び劇物取締り法(毒物及び劇物の管理)

松阪分析センターでは、事業活動において使用する毒物及び劇物について、鍵のかかる場所に保管しております。

また、毒物及び劇物の使用に関しては、物管理台帳により管理しており、盗難防止徹底しております。



4. 水質汚濁防止法(特定施設の漏洩対策)

分析器具等を洗浄する際に使用する流し台について、ひび割れなどの異常はないか、排水の漏洩の有無について毎月1回定期的に点検を実施しております。

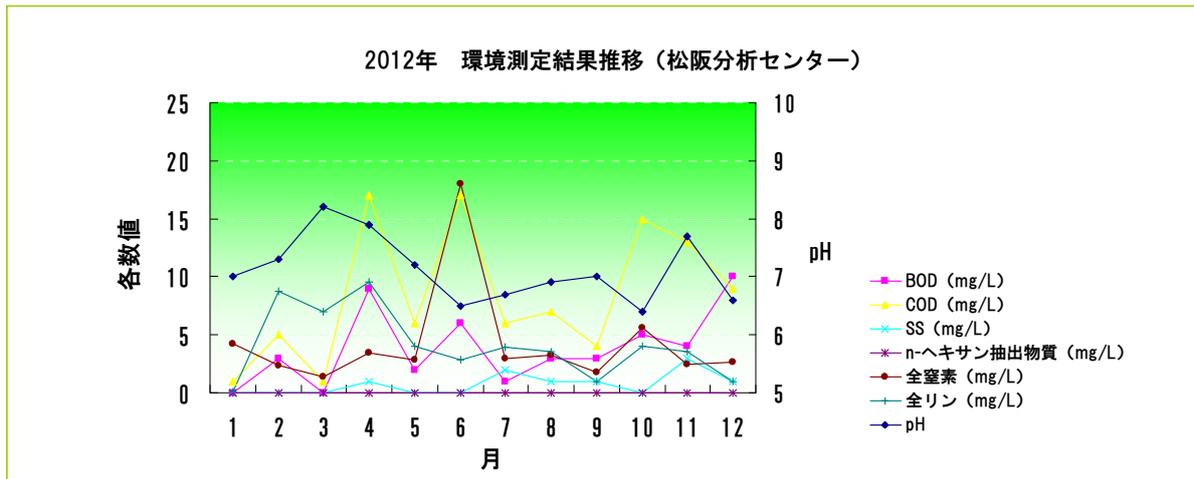


■ 周辺環境影響調査

松阪分析センターでは、悪臭調査の他にも、事業活動による周辺環境への影響調査として、放流水、地下水、騒音、振動についての調査も定期的を実施しております。

1. 放流水調査

松阪分析センターから排出される放流水については、pH値、BOD、COD、SS、n-ヘキサン抽出物質、全窒素、全リンの7項目を毎月測定し、年1回は、重金属、VOCなど37項目を測定しました。その結果、全ての項目において法規制の基準をクリアしておりました。



放流水水質結果

測定項目	測定値	自主基準	測定項目	測定値	自主基準
フェノール類	<0.1	1	四塩化炭素	<0.0002	0.02
銅	<0.02	1	1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.04
亜鉛	0.030	2	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.2
溶解性鉄	0.04	10	シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.4
溶解性マンガン	0.10	10	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	3
全クロム	<0.04	2	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.06
フッ素	<0.1	15	1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0.02
カドミウム	<0.001	0.1	チウラム	<0.0006	0.06
シアン	<0.1	1	シマジン	<0.0003	0.03
有機リン	<0.1	1	チオベンカルブ	<0.0002	0.2
鉛	<0.01	0.1	ベンゼン	<0.001	0.1
六価クロム	<0.04	0.5	セレン	<0.002	0.1
ヒ素	<0.005	0.1	メチルメルカプタン	<0.0005	0.016
全水銀	<0.0005	0.005	硫化水素	<0.0002	0.056
アルキル水銀	<0.0005	検出されないこと	硫化メチル	<0.0002	0.16
PCB	<0.0005	0.003	二硫化メチル	<0.01	0.283
トリクロロエチレン	<0.002	0.3	アンモニア・アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	1.3	100
テトラクロロエチレン	<0.0005	0.1	1,4-ジオキサン	<0.05	0.5
ジクロロメタン	<0.002	0.2	—	—	—

単位: mg/L



■ 周辺環境影響調査

2. 地下水調査

松阪分析センター敷地内における地下水においては、重金属、VOCなど28項目を、年1回測定しました。その結果、全ての項目において法規制の基準をクリアしており、事業活動による地下水汚染は確認されませんでした。

地下水水質結果

測定項目	測定値	自主基準	測定項目	測定値	自主基準
ガドミウム	<0.0003	0.01	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.02
シアン	<0.1	検出されないこと	シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04
有機リン	<0.1	検出されないこと	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	1
鉛	0.002	0.01	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.006
六価クロム	<0.001	0.05	1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0.002
ヒ素	0.001	0.01	チウラム	<0.0006	0.006
全水銀	<0.0005	0.0005	シマジン	<0.0003	0.003
アルキル水銀	<0.0005	検出されないこと	チオベンカルブ	<0.002	0.02
PCB	<0.0005	検出されないこと	ベンゼン	0.001	0.01
トリクロロエチレン	<0.002	0.03	セレン	<0.001	0.01
テトラクロロエチレン	<0.0005	0.01	フッ素	<0.15	0.8
ジクロロメタン	<0.002	0.02	ホル素	0.05	1
四塩化炭素	<0.0002	0.002	1,4-ジオキサン	<0.005	0.05
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.004	塩ビモノマー	<0.0002	0.002

単位: mg/L

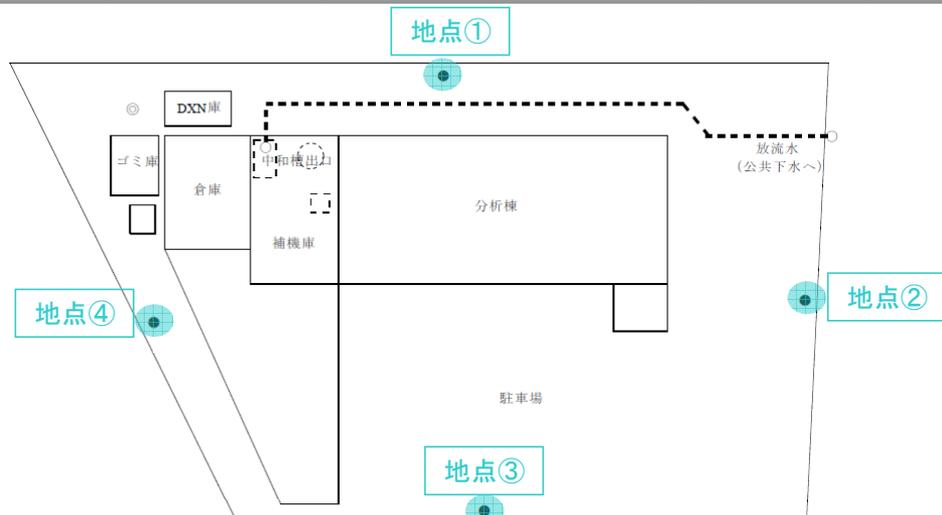


3. 騒音振動調査

松阪分析センター敷地境界における騒音、振動について、年1回測定しました。その結果、全ての項目において法規制の基準をクリアしておりました。

騒音振動測定結果

地点	測定項目	測定値	自主基準	測定項目	測定値	自主基準
①	騒音レベル(L ₅)	50 dB(A)	70 dB(A)	振動レベル(L ₁₀)	30 dB	70 dB
②		46 dB(A)			< 30 dB	
③		48 dB(A)			30 dB	
④		56 dB(A)			30 dB	



■エネルギー使用量削減の取り組み

◆電子会議システムの問題点と改善

現行の電子会議システム(NTT:MeetingPlaza)は音声の音割れ・遅延がひどく、実質活用していないという問題点がありました。

2/3にNTT西日本ITビジネス部メンバーにて現地調査を実施した結果、回線・ルーター等の回線帯域が脆弱で、システム運用に耐えられていない問題と、WEB会議システムの設定そのものについても問題がある事が判明しました。

その対応策として光回線契約の変更、高性能ルーターへの切替、マイク・スピーカーの再調整を実施し、回線速度の安定や会社全体の通信速度が高速安定しました。

ただ、改善は見られたが快適な環境とまでは言えない状況であり、最終的に別システムの検討へと至りました。

新しいシステムである『webex』の会議システムをテストした結果、問題なく使用できるため導入する事となり、営業会議・安全衛生委員会・工程チームミーティングで実際に運用を開始しました。

こんな効果が得られました。

- ・既存のマイク、スピーカーを有効活用
- ・現行システムとほぼ同額
- ・四日市⇄松阪間の移動が必要ない
(時間と燃料の削減)
月1回、片道約50km、4台が該当として
ガソリン年間約600リットルの削減



◆発注書自動FAX仕様の検討

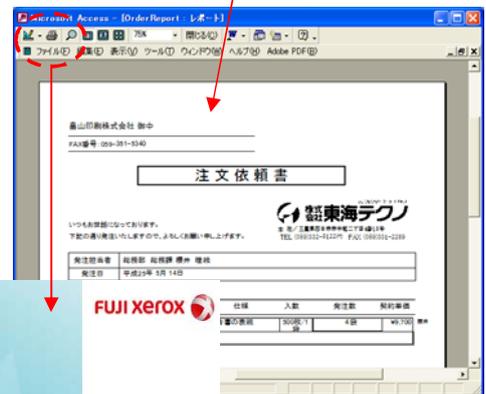
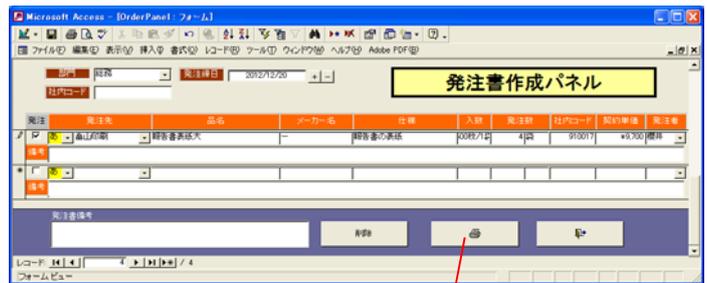
現在社内で運用している在庫管理システムは、作成した発注書を印刷し手動でFAXしています。これを自動FAXに変更する事ができないか、検討しました。

既に使用している速報FAX送信のモジュールを活用し、発注書自動FAXの仕様作成が可能である事が分かりました。

システムの構築と仮運用を進め、来年の本運用へ繋げたいと思います。

効果の予測

- ・FAXの誤送信がなくなる
- ・購入用紙の削減(年間5,600枚)
- ・ファイリング場所を取らない
- ・注文書を探しに行く手間がいらぬ
- ・廃棄物が出ない
- ・廃棄や分別の手間がいらぬ



DocuWorks™ 7.0
Fuji Xerox DocuWorks Version 7.0
for Microsoft® Windows®

■エネルギー使用量削減の取り組み

◆電気使用量の削減

2011年の事務所内蛍光灯の間引きや、昼食時完全消灯の活動を継続して行いつつ、エネルギーを使用せず、より快適に過ごせるよう、住環境の見直しを図りました。

(日常編)

- ・昼休みの2F事務所全消灯・・・節電効果35kWh/月
- ・エントランスの自動照明のスイッチON・・・31kWh/月

(季節編)

- ・重ね着、膝掛け等の使用(体感温度2.2℃上昇)・・・561kWh/月
- ・USBミニ扇風機の個別配布(体感温度2℃下降)・・・448kWh/月
- ・エアウイングの取り付け

日常編は毎日の掃除や昼休みの合図として節電活動をルーチンに組み込みました。

また、本社は常時デスクワークであり、1人1台のPC使用環境である事から、USBミニ扇風機13台を購入し、配布しました。
スポット的に冷やすことで、快適に節電ができました。

PC横にUSB扇風機を置いてデスクワークをしています。顔や手に直接風が当たること



メーカー: エレコム ↑
型番: FAN-U17WH

事務所内の空気を均一に攪拌するため、営業部側のエアコンにエアウイングを設置しました。

(メーカー: ダイアン・サービス、品番: AW7-021-02)

エアコンの直撃風を解消し、空調効率がアップしたと思われます。

また、間接的な風により、体調不良者の改善も見られました。

エアコンの直撃風を解消し、快適な風をお部屋の隅々まで循環させます。

エアコンからの直撃風によって、夏は冷房病、冬は極端な乾燥など、体調を崩しがちです。「AIR WING」は効率的に空気を循環させ、快適なオフィス・店舗・リビング空間を実現します。

こんな風に便利かつエアコンに取付ければこんなにスッキリ!

夏も冬もオールシーズン
ウイング本体の向きを変えられるだけで、冷房にも暖房にも対応。1年中使えてたいへん便利です。

簡単ワンタッチ取付け
誰でも簡単にワンタッチでエアコンに取付けできます。ネジや穴あけも不要で天井や壁を傷める心配もありません。

効果的に空気を循環
エアコンからの直撃風を妨ぎ、空気を効率的に循環させることで、「暑すぎ」「冷すぎ」といった温度ムラを解消します。

風向設定が自由自在
アーム部分が前後傾度、さらに上下に大きく動かせるので、風向設定も自由自在。

結露防止
AIR WING Pro

冷房時

暖房時

■EMS活動へのモチベーション向上に向けた啓蒙活動

◆エコキャップ活動への参加

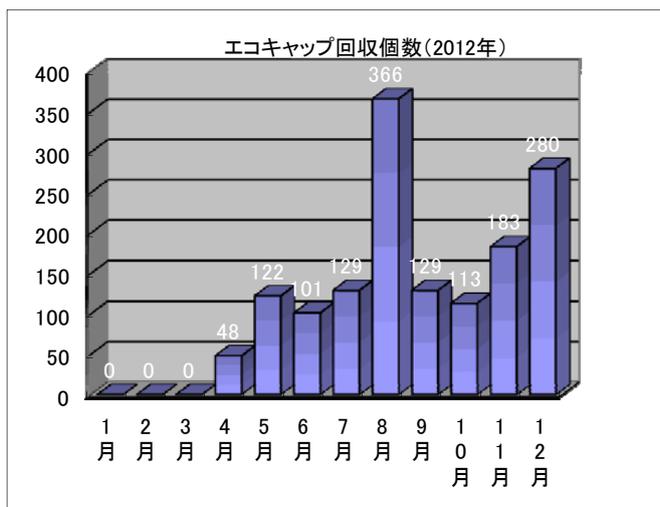
「社内で気軽に始められるエコ活動を」ということから、NPO法人(内閣府認証)エコキャップ推進協会主催のエコキャップ運動を本社内でスタートさせました。

本社では2F不燃物用ゴミ箱横と、1F自動販売機用ゴミ箱へキャップ回収BOXを設置しました。



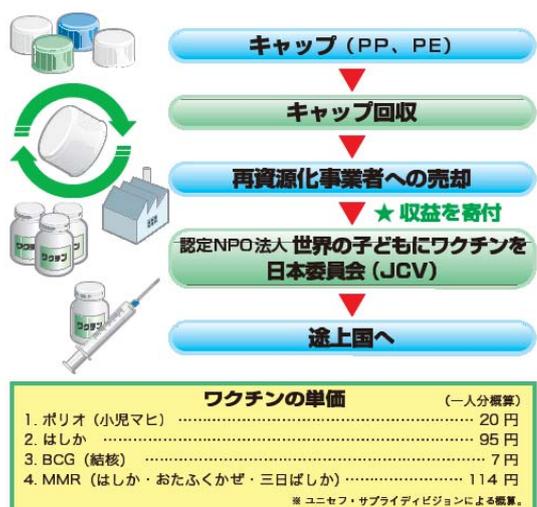
本社回収状況

2012年、年間回収個数1,471個



エコキャップ運動

ワクチンになるまでの流れ



最終的には本社では1,471個が集まりました。

800個1単位で業者は引き取りをしてくれますが、手続きや手数料を考慮し、来年度もこの活動を継続し、数がまとまってから回収業者への引渡しを行いたいと考えています。

■EMS活動へのモチベーション向上に向けた啓蒙活動

◆グリーンバード清掃活動への参加

2012年7月に発足したグリーンバード四日市チームの活動を知り、清掃活動に参加しました。この清掃活動は、諏訪・伊坂ダムを拠点に地元四日市をキレイで元気な街にするため、月3回の清掃活動が実施されており、営業部・総務部の有志数名で参加しました。友達同士や家族連れなども多く、アットホームに楽しく活動されているため、次年度以降も継続的に参加し、全社的な地域環境活動の一環として広げて行きたいと思います。

グリーンバードとは・・・

「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに誕生した原宿表参道発信のプロジェクト。日本各地で清掃活動や街づくりを行っているNPO法人です。
2003年1月設立。国内に39チーム、海外に4チーム(2012年12月現在)
<http://www.greenbird.jp/index.php>

四日市チームは毎月、
○第2月曜夜(諏訪公園)19:00集合、19:30~20:30清掃
○第3日曜朝(伊坂ダム)8:00集合、8:30~9:30清掃
○第4土曜朝(諏訪公園)8:00集合、8:30~9:30清掃
の各所で、約1時間の清掃活動をしているボランティア団体です。



Green bird 12月おそうじスケジュール

みなさまのご参加お待ちしております。

- ☆ 参加自由で事前申し込みも不要
- ☆ 手ぶらで参加OK
- ☆ 雨天の場合はお休みです
- ☆ そうじ道具はコチラですべて用意しています
- ★ 忘年会開催します 12月16日(日)

集合時間	★第2月曜(10日) 夜 19:00 ・諏訪公園
場所	★第3日曜(16日) 朝 8:00 ・伊坂ダム
	★第4土曜(22日) 朝 8:00 ・諏訪公園
	★忘年会(16日) 夜17:00 ・四日市駅周辺

【お問い合わせ】お電話にてご連絡ください
グリーンバード四日市 (担当: 総務)
yokachigreenbird.jp
www.greenbird.jp



◆ウェルカメよっかいち早朝清掃への参加

四日市ウミガメ保存会が主催している、「ウェルカメよっかいち」の海岸清掃活動に参加しました。コンビナートの街・四日市に再びウミガメが産卵に来るような砂浜にしたい・・・という思いから、毎月第1日曜日に楠町吉崎海岸で1時間の海岸清掃と1時間の環境学習講話を実施されています。月替りの講話も様々なジャンルのものであり興味深く、特に小学生の親子連れが多く参加され、毎月40~60名程度の方が活動されています。



■節電啓蒙活動による資源削減活動

省資源の啓蒙活動として、視覚的な訴求効果がある方法として、節電シールを用いることとしました。

具体的な方法は、各部屋の電灯スイッチの近傍へ節電シールを貼り点灯の際に節電を啓蒙するものです。

シールの内容は、各部屋で電灯を点灯した際の二酸化炭素発生量及び電気代を1時間当たりと8時間当たりの数値を記入したものです。

四日市分析センターの21の部屋について、それぞれの蛍光灯本数を調査し、二酸化炭素発生量及び電気代を算出しました。

電灯を点ける度に、必ず目にするため 節電意識の向上に寄与しています。

場所	蛍光灯本数	消費電力(kw/本)	消費電力(kwh)	金額/kwh	コスト(¥/h)	コスト(¥/8h)	2012年	
							CO2(kg/h)	CO2(kg/8h)
2F本棟棟	15	0.04	0.6	30	18	144	0.2	1.9
1F本棟棟	19	0.04	0.8	30	23	182	0.3	2.4
2Fホール棟下	14	0.04	0.6	30	17	134	0.2	1.8
1Fホール棟下	13	0.04	0.5	30	16	125	0.2	1.6
金庫室	30	0.04	1.2	30	36	288	0.5	3.8
2F事務室	66	0.04	2.6	30	78	624	1.0	8.3
実験試験室	4	0.04	0.2	30	5	38	0.1	0.5
クローゼット室	16	0.04	0.6	30	19	154	0.3	2.0
上水試験室	36	0.04	1.4	30	42	346	0.6	4.5
養生物室	16	0.04	0.6	30	19	154	0.3	2.0
検定機器分析室	28	0.04	1.1	30	34	268	0.4	3.5
全棟量検事務室	16	0.04	0.6	30	19	154	0.3	2.0
2F検査棟前処理室	20	0.04	0.8	30	24	192	0.3	2.5
多目的室	24	0.04	1.0	30	28	230	0.4	3.0
実験室	38	0.04	1.5	30	45	365	0.6	4.8
1F中央分析室	78	0.04	3.0	30	91	730	1.2	9.5
1Fフォーンドブース	4	0.04	0.2	30	5	38	0.1	0.5
個別分析室	16	0.04	0.6	30	19	154	0.3	2.0
1F検査棟ホール	4	0.04	0.2	30	5	38	0.1	0.5
1F検査棟前処理室	10	0.04	0.4	30	12	96	0.2	1.3
1F検査棟定置室	16	0.04	0.6	30	19	154	0.3	2.0

機器名	事務室 蛍光灯
この蛍光灯を1時間点灯すると、「二酸化炭素が1.0kg」発生し、「電気代が79円」かかります。8時間点灯すると、「二酸化炭素が8.3kg」発生し、「電気代が634円」かかります。	
効果的な運用方法を考え節電・省エネを意識しましょう	



■ECOタイヤ導入による資源削減活動

今年度より、タイヤ交換時にECOタイヤへ更新することとなりました。

ECOタイヤの効果として、燃料消費量を2.5%削減する事を見込んでいます。

四日市分析センターの車両は業務用のバンがほとんどですが、時代の流れでしょうか、各メーカーとも省燃費タイヤをラインナップにあげています。

今年度は18本のタイヤをECOタイヤへ更新しました。



■循環冷却水の再利用化による資源削減活動

分析作業の中には水道水を用いた冷却装置による前処理を実施している工程があります。

そこで、循環冷却装置を導入して、水道水使用量を削減する活動を実施しました。

今回実施したのは無機前処理室の水銀還流分解装置への導入です。

こちらへ循環冷却装置を設置し、1ヶ月当たり4800Lの水道水使用量を削減することができました。

同様の工程は他にもあるため、循環冷却装置の計画的な導入を検討しています。



■EMS活動のモチベーション向上

ペットボトルのキャップを集めて寄付団体へ送り世界の子供にワクチンを届ける活動があります。

この活動に参加することで、社会貢献ができるとともに、省資源や廃棄物削減の意識の向上が図れると考えました。

社内の自動販売機近くに設置してあるゴミ箱のとなりに、キャップ専用の回収箱を設けました。

一年間の活動の結果、約1800ヶのペットボトルキャップを回収することができました。

普段の何気ない行動が社会貢献と環境保全につながるという事も社員にも好評でした。



2012年は復興から1年がたち社会が省エネルギーや節電に率先して取り組む中、松阪分析センター全員協力して省エネ・省資源に対する環境活動に取り組みました。

その成果の一つとして、今年は電力管理のデマンド管理目標を75kwから2kw減らした73kwでの運用管理に変更しましたが、支障なく運用がすることができました。

また社会貢献活動としては、他部署に1年遅れを取りましたがエコキャップ活動に参加し、「分ければ資源、キャップ 800個で世界の子供たちにワクチンを届けよう」を合言葉に、社員一揆団結してペットボトルキャップの収集に協力しました。

今年で3年目になる「私のエコ宣言」については、個々の環境に対する意識がより一層向上したエコ宣言（電気、水道使用量削減提案を1件以上）をする人もおり、節電や廃棄物削減において、小さなことからコツコツと取り組む姿勢が見られました。

環境への取り組み順守状況としては、悪臭の他にも事業活動による周辺環境の影響調査として放流水、地下水、騒音、振動についても調査を行い、すべての分析の結果が基準値以下に収まりました。

社会貢献活動

・世界の子供たちにワクチンを届けようをスローガンに回収BOXを設置し、ペットボトルのキャップの収集に努めました。



1120個
収集！



エネルギー消費によるCO2排出量削減の取り組み

・地道な活動にも継続して取り組んでいます。



日照を活用した蛍光灯消灯



カーテンを開け明るい内に作業



気候のいい時期は自然換気

エネルギー消費によるCO2排出量削減の取り組み

・COD計を更新することにより、歩留まりと起動トラブルを削減しました

COD計



始業点検記録

日	実施者	特記事項(備品交換・異常発生など)	処置内容	対応
4	山本	プロローサー異常	清掃、センサー交換	要・否
16	〃	フラスコ洗浄回転異常(停止)途中停止		要・否
17	〃	1Zル洗浄槽排水異常	電磁弁清掃	要・否
22	〃	〃	〃	要・否
27	〃	イオン交換樹脂劣化、PPフィルター交換		要・否
28	〃	フラスコ洗浄回転異常(停止)	フラスコ交換	要・否

毎日のように始業前トラブルが発生

更新



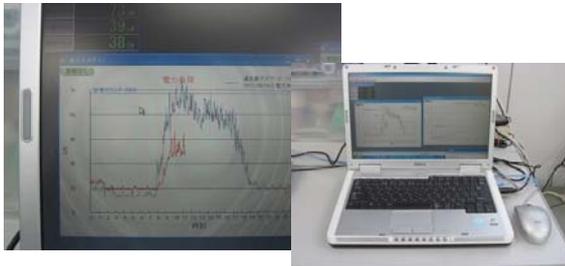
トラブル削減

日	実施者	特記事項(備品交換・異常発生など)	処置内容	対応
				要・否

トラブルが0件に!

1年稼働時間180時間の短縮
(二酸化炭素176kg、電気代7920円の削減)

・デマンド管理値を75kw→73kwに変更



-2kw

節電に努めることにより、
支障なく運用ができました



周辺美化活動

- 【日 時】 2012年5月9日、11月27日
- 【場 所】 東海テクノ分析センター周辺
- 【参加人数】 54名(2日間)
- 【内 容】 今年は、パート社員、派遣社員も含めて27名で約1時間かけて分析センター周辺を綺麗にしました。

常に全員参加がモットー

みんなで同じ目的で活動するため、気持ちい



松阪環境活動推進者



当社がISO-14001を取得し13年目に入りました。最初の頃は、どのような活動をして良いのか判らず人まかせでした。しかし、環境活動報告書を4年前から作成することにより自分が率先して活動しない限り報告書を作成できないことがわかり、環境活動にも熱が入りました。分析センター全員で取り組む意識向上のため、個々に自分が1年通して活動出来ることを宣言していただき、一覧表にして見える所に掲示しました。(私のエコ宣言)
環境活動はいかに全員を巻き込んで活動を行うかが勝負になりますので、今後も全員参加をスローガンに活動していきたいと思っております。

■事務用品のグリーン購入

2008年から始めたグリーン購入も最終目標・購入比率100%の年となりました。

年々購入物品の見直しを図り、日々の購入でも発注担当者への周知によって、2011年は90%と目標を達成することができました。

しかし、やはり完全に全ての物をグリーン購入とすることは難しく、100%にはあと一步届きませんでした。

とは言え、この5年間で担当者以外の社員にも「グリーン購入」という意識付けはできた、意義ある活動であったと思います。一旦の区切りは付きましたが、次年度以降もグリーン購入自体は継続して行きたいと思います。

■2012年度 グリーン購入比率結果

全社で購買する事務用品・衣類等においてグリーン購入調達可能品を総アイテムから割り返し算出しております。

	グリーン購入 該当	グリーン購入 非該当	代替商品 有り	代替商品 無し
本社	57	65	3	62
四日市AC	73	87	8	79
松阪AC	56	65	5	60
全社計	186	217	16	201

グリーン調達率

□グリーン調達可能アイテム数
186+217-201=202

□2010年度グリーン調達率
186÷202=92%

■グリーン購入比率の推移

	2007	2008	2009	2010	2011	2012
目標	—	25%	50%	70%	90%	100%
結果	—	27% ↑	84% ↑	85% ↑	90% ↑	92% ↓

■2012年度の活動概要

2012年度は昨年審議に挙がっていた作業服の更新を実施しました。現場作業に配慮した静電タイプ、且つグリーン購入対象商品である、冬ブルゾン(AG20471)、男性用冬ズボン(AG20474)、女性用冬ズボン(AG20478)が採用されました。

全体的に大幅なイメージチェンジはせず、機能的にも条件を満たしており、全社にて3/1からの運用となりました。



↓ 男性用冬ズボン (AG20474)



↓ 女性用冬ズボン (AG20478)



地域社会への貢献を環境情報提供という形で目指しています。

自社の環境負荷低減だけを目指すのではなく、当社の製品である分析結果を活用していただいている顧客の環境負荷低減に貢献できることが、当社に出来る最も大きな環境負荷低減につながると考えております。

日々発信される新しい環境規制や環境ニーズを必要とされる顧客に情報を提供することで、顧客の事業において環境管理の在り方を考え、維持して頂くことで、より社会全体の環境貢献につながると考えております。

今年度は、水質汚濁防止法が改正・施行されたことに伴いセミナーを開催したり、企業から排出される廃棄物の有効活用について他企業と共同で活動をスタートさせる年となりました。また昨年同様、ホームページでの随時情報提供や、ニュースレター『かわせみ通信』発行の継続等を中心に行ないました。



セミナー・展示会の開催への取り組み

今年度も多くのセミナーを開催しました。主な開催状況は下記のとおりです。

●2012年7月 夏期環境セミナー

6月に水質汚濁防止法が改正・施行されました。今回の大きな改正点として「有害物質使用特定施設、有害物質貯蔵指定施設に係る届出規定」「構造基準等の遵守義務の創設」「定期点検義務の創設」が挙げられていたため、今回のセミナー内容は改正の概要だけにとどまらず、日常の点検や管理などについて外部のメーカーより講師を招き、開催を行いました。

講師：栗田工業株式会社『水質汚濁防止法改正の概要と有害物質指定施設等の定期点検についてのプラントメーカーとしてのご提案』

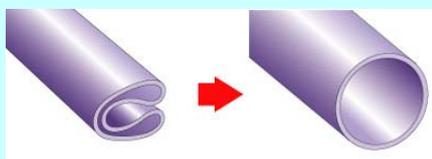
講師：株式会社堀場製作所『改正水質汚濁防止法等に寄与する水質計測装置』

【59団体 99名参加 四日市商工会議所にて】



紹介実例：「埋設配管の修復材(写真は輪切り状)：オメガライナー」

使用方法は配管内へチューブを折りたたんで挿入し、蒸気を吹き込むと形状記憶素材(硬質塩化ビニル)の性質で円筒形に復元、既設配管に密着し内部がコーティングされた状態なり、使用することで強度を復元し耐食性・水理性・水密性が向上、ひび割れ、ピンホールによる漏洩が防止できます。埋設配管の修復にお困りの方や、手が出せないと思っていた地下の漏洩対策にも活用できる商品です。



●2012年5月 NEW環境展への出展

5月に東京ビックサイトで開催された「2012 NEW環境展」にブースを出展し、「アスベストモニタリング車『MOVING LAB(ムービングラボ)』」を、展示いたしました。建材アスベストを現場で分析確認したいという要望に応え、車両に偏光顕微鏡を搭載、調査現地においてEPA法にて、アスベスト分析を行うことが可能になり、今後の活用が期待されます。



月刊ニュースレター『かわせみ通信』の発行

当社とお客様との関係をより良くするため、お客様の業務や科学の工学的関心に直結するニュースレターを発行し、約3年半が経ちました。営業員のPRIにより配信先も300社を超えました。今年からは従来の定番のコーナーだけでなく、環境イベントや法改正の案内等を随時案内していくことで、コミュニケーションツールの一つとして定着してきました。

【2012年3月号】 ペットボトルから再生される線維かどうかを判定する分析技術の紹介を行いました。

かわせみ通信 3月号 2012年3月. IEC62474がようやく始動。～「環境」の国際標準化というハードル～. 読者先生! かわせみ先生. ココに残あり! あれでこいたつ子をなくそう. 探検隊. 社務部. 社務部. 社務部.

【2012年7月号】 再生可能エネルギーの一つとして地熱による発電の活用例の紹介を行いました。

かわせみ通信 7月号 2012年7月. 賢者は歴史に学ぶ。～FIT活用の最前線～. 読者先生! かわせみ先生. ココに残あり! 現場での写真撮影も一人でもラクラクミニ撮影. 探検隊. 社務部. 社務部. 社務部.

【2012年9月号】 作業環境測定についての重要性、法改正などを伝える内容となりました。

かわせみ通信 9月号 2012年9月. 世界中の産業界が注目! 一次世代バイオメディスの進展～. 読者先生! かわせみ先生. ココに残あり! 現場で撮影! 携帯型ボイラ燃焼効率計. 探検隊. 社務部. 社務部. 社務部.

【2012年12月号】 省エネ照明の代表される照明として、CCFL管照明

かわせみ通信 12月号 2012年12月. バイオプラの積極導入でPDPの効果的利用を～期待される日本のリーダー～. 読者先生! かわせみ先生. ココに残あり! 光の質にもこだわらね! LEDでなくCCFLの選択. 探検隊. 社務部. 社務部. 社務部.

内部環境監査員養成セミナーの内容拡充

- ISO14001シリーズ 内部環境監査員養成セミナー 年5回開催(出張開催含む)
- ISO9001シリーズ 内部品質監査員養成セミナー 年5回開催(出張開催含む)

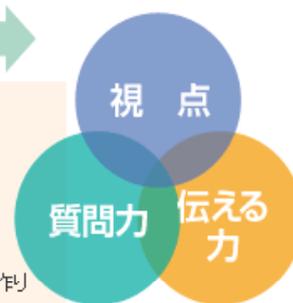
昨年度まで、内部環境監査員養成セミナーは、内容を理解していただくために、基本を中心とした講習内容を企画しておりましたが、ISOの規格を通して問題解決の方法を習得される人材育成の場所としても活用いただけるよう、大幅にテキストの内容を改定し、より実践に活用していただけるような内容へ変更しました。

セミナー終了時には参加者へのアンケートを行い、随時見直しを行っておりますが、参加者の方からは「内容が理解しやすかった」「コーチング方式」は他の業務にも活用可能できる」「グループ討論ではいろいろな意見交換ができて良かった。」などよい返答をいただいております。今後も各企業様にとって、ISOが取り組みやすくできるようなしていきたいと考えております。

カリキュラムのPoint

1から6の演習の中で、問題解決に必要な3つの力を育てます。

- 1: 事前調査の方法……問題解決の準備
- 2: 監査ポイントの考察(要求事項にあった視点を育てる)……視点
- 3: 監査ポイントに沿った仮説の設定……仮説作り
- 4: チェックリストの作成(仮説実証のための質問方法まとめ)……良い質問方法
- 5: コーチング手法に基づく質問事例(良い答えを引き出す)……コーチング
- 6: 問題解決に直結し、今後に反映する記録の作成方法……問題解決のツール作り



社会貢献活動への取り組み(地域清掃活動)

恒例行事となりましたが、地域清掃活動を本年は6月と11月に実施しました。本年も本社(四日市市午起2丁目)と、四日市分析センター(四日市市午起1丁目)、松阪分析センター(松阪市若葉町)にて、それぞれが周辺地域のゴミ拾い、草刈り、側溝の清掃活動を実施いたしました。



社会貢献活動への取り組み(地域開催イベントへの参加)

「Mie子どもエコフェア」 日時：2012年7月21日、22日
場所：鈴鹿山麓リサーチパーク

7月に「Mie子どもエコフェア」へ出展いたしました。環境・エコのことを『たのしく、わかりやすく、もっとふかく』と親子で体験するイベントです。使い捨ての「プラコップ」に絵を書き、オーブントースターで収縮させ、オリジナルのキーホルダーを作る体験ですが、熱をかけることで立体に絵を書いたものが平面になるため、子供たちは想像力を働かせたり不思議がっていたりと化学に興味を持ってもらえる内容で開催できました。



